

1 - 2 市川の文芸風土の特色

市川の文芸風土の特色は、

1 時代 においては

古代の『万葉集』に真間の手児奈伝承が詠まれたのを嚆矢とし、平安時代以降は歌枕の地として、近世は江戸近郊の行楽地として、明治時代以降は東京にほど近い郊外都市として、現代活躍中の作家に至るまで、間断なく文芸活動が展開されている点を、大きな特徴とする。

2 地理的環境 においては

下総国府の置かれた『万葉集』の故地という基盤を根底に有し、下総台地・江戸川・真間川・砂州といった自然環境の多彩さが、さまざまな文芸作品の成立に作用し、江戸・東京からほどよい距離感にある遊山・ベッドタウンとしての土地柄が、多くの文人たちの活動を促す場所となっている点を、重要な特徴とする。

3 分野 においては

小説（永井荷風・幸田露伴ほか）、詩（宗左近ほか）、短歌（北原白秋ほか）、俳句（能村登四郎ほか）、川柳（阪井久良伎ほか）のみならず、脚本（水木洋子ほか）、戯曲（井上ひさしほか）、演芸（小島貞二ほか）、児童文学（梶山俊夫ほか）、外国文学（郭沫若ほか）、文学研究（麻生磯次ほか）、出版活動など、「文芸」ないし「文化」的なものも、周辺に抱え込みながら、広範囲に及んで展開している点を、他にみない特筆とする。

4 文芸的資産 においては

全国的な著名作家の創作から、市民の読書・文芸サークル活動まで、有名無名を問わず、多彩な文芸活動が展開されており、水木洋子邸・郭沫若記念館・紫烟草舎などの文学施設、図書館・公民館・文化会館をはじめとする文化施設、日本文学課程を有する大学など、文芸関連スポットも多く存在している点を、大切な特徴とする。

これら市川の文芸風土と、作家や市民の活動、そこで生み出された文学作品は、いずれも、市川が誇るべき重要な文化的資産であり、これらを体系的に次世代に継承し、まちづくりに資していくことが、行政としての責務であると考えます。